

日本工学会講演会

「博士後期課程修了後のキャリアパス多様化に向けた学協会の役割」

【主旨】理工系大学院における博士後期課程への進学率が低下し、優秀な人材は修士課程修了後に就職する傾向が強い。この傾向に歯止めをかけるために後期課程に進学する学生へのRAなどによる経済支援を積極的に行う大学が増えているが、より大きな問題として学位取得後のキャリアパスへの不安がある。これは博士後期進学者の多くが学位取得後に大学や研究機関への就職を視野に入れているものの限られたポストしか用意されていないため熾烈な競争になること、またこれまでの大学院博士後期課程における教育が指導教員の専門分野における研究者養成一辺倒であったために、一般に修了者の視野が狭く、柔軟性に欠けることから企業が積極的に採用する状況になかったことが原因である。

本講演会はこのような状況を打破するために博士後期課程における教育、研究指導が今後どうあるべきか、そしてこのために学協会が果たすべき役割について多方面からのご意見を伺うことを目的として開催する。

日 時：平成 20 年 4 月 23 日（水） 13 時 30 分-15 時 40 分

場 所：建築会館ホール

主 催：社団法人日本工学会

協 賛（予定）：文部科学省、社団法人日本工学アカデミー、社団法人先端技術産業戦略推進機構

参加費：無料

【プログラム】

司会 日本工学会 理事 嘉納 成男

13:30～13:40

開会の挨拶 日本工学会 会長 岸 輝雄

13:40～14:10

文科科学省の取り組み～イノベーション創出若手研究人材育成プログラム～（仮題）

文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長 山脇 良雄

14:10～14:40

日本物理学会の取り組み ～科学技術振興調整費による「科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業」～（仮題）

愛知大学法学部教授 坂東 昌子

14:40～15:10

日本化学会の取り組み～博士セミナーを開催して～

旭化成株式会社顧問 府川 伊三郎

15:10～15:40

マスコミの視点～若手研究人材のキャリアパス多様化の必要性和学協会へ望むこと（仮題）～

株式会社日経 BP 社 丸山 正明